

第9回全国中学生ラグビーフットボール大会に協賛

スポーツマン精神溢れる真摯な選手たちへ、おもちの良さを真剣アピール！

全国餅工業協同組合は、2018(平成30)年9月15日(土)～17日(月・祝)に茨城県水戸市で行われた「太陽生命カップ2018 第9回全国中学生ラグビーフットボール大会」に協賛し、“スポーツとお餅の親和性”を伝えて、スポーツ時の栄養補給や、カーボローディングにお餅が適した食べ物であることを紹介するために、未来の消費を担う若い世代へ向けてPR活動を行いました。



ノーサイドの、その瞬間まで。

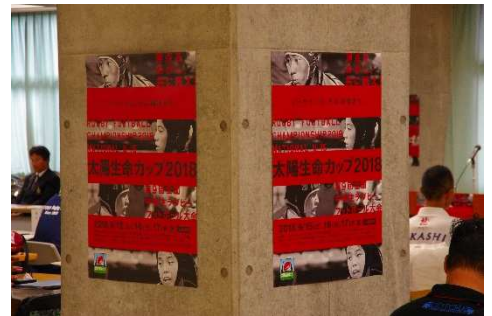
大会ポスターに「ノーサイドの、その瞬間まで。」というキャッチコピーが記されたこの大会には、参加選手全員がフェアプレー精神を貫き、ノーサイドの瞬間まで全力を尽くして闘い、ホイッスル後には互いの健闘を讃え合おうという思いが込められています。

選手同士の接触の多い競技だからこそ、フェアプレー精神を徹底し、選手や指導者の質の向上や人材育成を目標に掲げるこの大会は、今年9回目を迎え、全国の中学生ラグビー選手が憧れる大会として不動の地位を築いています。

私たち全餅工もこの大会を2年連続で協賛させて頂くにあたり、ラグビー競技の発展とともに、健全で屈強な肉体を形成するためのサポートとなるよう、おもちの有用性を真摯な姿勢でご紹介させて頂いています。

大会は昨年と同様に関東・関西・九州の3地域のラグビーフットボール協会の下で予選大会や選考試合が行われ、「第1ブロック・中学校=8チーム(12人制)」「第2ブロック・ラグビースクール=8チーム(12人制)」「第3ブロック・都道府県代表女子=8チーム(7人制)」が本戦に進出。それぞれのカテゴリーで日本一が競われます。

大会初日、メイン会場となるケーズデンキスタジアム水戸(水戸市立競技場)にて、本戦に進出した全選手参加による開会式が開催されました。全餅工では、スタジアム前に特設テントを設け、パネル展示やおもち大明神を設置。おみくじで大吉が出れば切り餅セットをプレゼントする催し等を行いました。



惜しくも大吉が出なかった方でもSNSでハッシュタグをつけて投稿してくれた方には切り餅セットを贈呈。

記念撮影以外にも「10月10日はおもちの日」にちなんだ投稿が徐々に増えてきていて、一般の方の間にも「おもちの日」が浸透し始めている手応えを感じられます。



プライバシー保護のため画像処理を施しています

また、大会初日に行われた監督会議では、参加各チームに向けて選手人数に加えて監督や登録役員分の切り餅セット(手提げ袋入りの切り餅パック・餅カーボ漫画チラシ・リーフレット・ティッシュ)が配布されました。

大会は一部雨天に遭いながらも無事日程を消化。第1ブロック(中学)では、東海大学付属仰星高等学校中部が2年連続2回目の優勝、第2ブロック(ラブブースクール)では、昨年3位の吹田ラグビースクールが初優勝、第3ブロック(都道府県代表女子)では、北関東・信越女子代表が初優勝を果たしました。



全餅工では、スポーツに勤しむ若者たちをはじめ保護者や指導者の皆さまに向けて、お餅がスポーツ時の栄養補給やカーボローディングの実践に適した食品であることを伝え、餅の機能性や国内産水稲もち米100%使用の包装餅の魅力をもっと多くの方々に向けて一層アピールしていくため、今後もスポーツ振興とプロモーション活動を推進してまいります。